

<添付資料2>

改訂中期ビジョン2005-2008

【シナリオ】

1) 2004年度の収支決算は、約21万円の収支赤字となり、その結果次期繰越は約468万円となった。これを起点として、常勤スタッフ3人体制を踏まえた、次の重点施策を通して4年間で黒字財政への転換を実現する。

■新装「モニター」、新イヤープック「核軍縮・平和・自治体」を主軸に、会員数増加を含めて、4年間で、対2003年度比約300万円の正味収益増を生み出す事業に育てる。

■ボランティア、インターン、臨時スタッフの拡充、ならびに企業・個人寄付金、活動助成金の拡大による組織強化によって、4年間で約100万円の正味収益像を実現する。

2) 2008年度末に、若干の繰越金を残しつつ収支均衡財政を達成する。

【段階的財政シミュレーション】

2008年度末において、若干の繰越金を残しつつ「年度収支均衡」を達成する。

単位：万円

年度	年度収支	繰越金	常勤 スタッフ数	摘要	比較：第1次中期ビ ジョン（2003- 2006）	
					年度収支	繰越金
2003	+93	489	2	決算	△200	200
2004	△21	468	3（11月～）	決算	△150	50
2005	△221	247	3（通年）	予算	△50	0
2006	△141	106	3（通年）	目標	0	0
2007	△61	45	3（通年）	目標	NA	NA
2008	0	45	3			

【現状の評価】

1) 2004年度は当初予算化されていなかった企業寄付金 200万円を受けることができた。収支決算はその結果大きく上方修正されている。仮にこの寄付金がなかったとすれば、収支赤字は221万円に膨れ、繰越額は268万円となるところであった。

- 2) 上記企業寄付金がなかった場合の赤字額 221 万円と当初予定の赤字額 79 万円との差は 142 万円となる。この数字が 2004 年度企業寄付金を除いた収支改善努力目標と結果の落差である。
- 3) このように、ピースデポの主体的収支改善努力という観点（これこそが「中期ビジョン」の意図したものであった）から見れば、財政再建シナリオの達成状況はかなり危機的である。

【2005年度以降の方針】

- 1) 上記現状を踏まえ、中期ビジョンの段階的財政シミュレーションの終期を 2007 年から 2008 年に後送りした。
- 2) 2005 年度予算は、常勤スタッフ通年 3 人体制を前提として、年度収支赤字 221 万円となるように組んだ。これは、企業寄付金を除いた 2004 年度収支赤字 221 万円を維持することを意味する。
- 3) 2006 年度以降は、毎年度、対前年度比 80 万円の収支改善を行い、2008 年度において収支均衡財政を達成する。